



### 3 ユニバーサルデザインと学びの場

#### (1) ユニバーサルデザインの教育支援とは？

- ① 特別な支援を必要とする子どもには、「なくては困るもの」
- ② 他の子どもにとっても、「あれば助かるもの」

#### (2) なぜ、ユニバーサルデザイン？

- ① 学校生活のほとんどが授業
- ② 学校生活のほとんどが学級集団
- ③ 個別の指導の限界

#### (3) ユニバーサルデザインって？

- ① 従来に行われてきた教育支援（特別支援教育的なアプローチも含む）
- ② ちょっと新たな教育的視点

#### (4) 新たな教育的視点のヒントはどこに？

- ① 学力の上がりづらい子どもに
- ② 落ち着かず、話の聞けない子どもに
- ③ できないことを認めるところに
- ④ 一つの考え方に偏らない、固執しないところに

#### (5) ちょっと新たな教育的視点

- ① 分からない生徒は、どんなに分かりやすく説明しても（1人では）分からない。  
※協同学習のすすめ→友達、教材、自分、それぞれとの対話（言語活動）
- ② 大きな声の説明は、理解につながっていない。  
※学びは言葉を探しにくることから始まる
- ③ できないことを怒っても改善されない。※育っていないのだから
- ④ 怒られながらの指導は入らない。
- ⑤ 動機付けの興奮は、失敗のもとになる。
- ⑥ 無視することも支援になる。（ほめるチャンスを待つ）
- ⑦ 全員の生徒が1回の話で分かることはない。  
※友達、先生に聞いても大丈夫
- ⑧ できないところより、できるところを刺激する。
- ⑨ 視覚と短い話で伝えたい。 などなど

### 4 おわりに ※安心して生活し、学べる学級、学校作りへの構え

- (1) 一番困っているのは本人 … 大人が先に困っていては、本人を支援できない。
- (2) 行動には必ず、理由や意味が … 行動だけでは、本人を分かることはできない。
- (3) 認めてほめる … 認められてこそ、ほめられてこそ、自ら動機を高められる。
- (4) まず学級・学校、そして、それぞれの場所 … 学校の中で、合理的配慮を探る。
- (5) 時間や物事の流れの力も … 人の力だけでは育たない。
- (6) 半分の真実 … 生徒を支援する時「～しなければならない」「～でなければならない」「～である」は、必ずしもその時すべてが正解ではない。隣だったり、裏側だったり、もう一つの物語があるかもしれない。